

※公式ホームページでは施設情報のほかイベントやブログを発信しているほか、旭山動物園だより・あさひやまどうぶつえんみにだよりなど各種発行物を pdf でダウンロードすることができます。



【2025年度・夏期開園】 4/26(土)～11/3(祝)
 【開園時間】午前9:30～午後5:15 (最終入園は午後4:00まで)
 ※10/16(木)からは午前9:30～午後4:30 (最終入園は午後4:00まで) 期間中休園はありません

公式ホームページ



旭山動物園だより

発行所

旭川市旭山動物園

動物図書館

☎0166-36-1104



6/6の朝、トナカイの「麻生」が出産しました。トナカイの子どもが順調に生育するのは7年ぶりのことです。先日メインの放飼場に出てきました。ぜひ親子の様子を観察してみてくださいね。6/9撮影

6/6、トナカイの子どもが
生まれました！

新しい命の誕生と、
ヒナや子の現在。

オオコノハズクのヒナが巣立ちしました



4/26と27に孵化したオオコノハズクのヒナたちが5/25と27に巣立ちしました。まだ親とは違う柔らかい羽毛におおわれています。6/10撮影

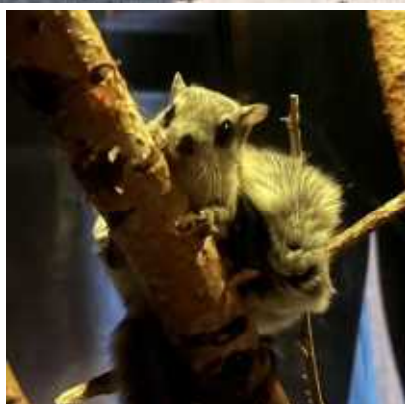
「とりの村」も、
ヒナがいっぱい！

6/4ごろからマガモのヒナが続々と孵化し、水面を泳いでいます。近くで親がヒナたちの様子を観察しています。6/9撮影



アムールヒョウの子どもは
だいぶ大きくなりました！

昨年8/24に生まれたアムールヒョウの仔(メス)は、母親の「みらい」と見間違えそうになるほど大きくなりました。脚のケガが完治せず、今はバックヤードで暮らしています。まもなく1歳をむかえます。6/1撮影



今年も、エゾモモンガの
子どもが生まれました

5/6にエゾモモンガの子どもが3頭生まれました。2年連続の誕生で、2頭が順調に成長。先日、子どもが巣箱から出てきました。ぜひエゾモモンガ舎へ！写真は6/18のSNSのものです

何でも食べる、それが生き残るための強み。今年の園内は毛虫が多いです。木の葉からぶら下がっているものもいますし、手すりや壁、園路上を歩いているものもいます。この多くはマイマイガやカシワマイマイです。チョウやガの幼虫はだいたい食草が決まっているのですが、彼らはいろんな植物の葉を食べます。カシワマイマイと云うのだからカシワの葉も食べますが、ヤナギやサクラ、フキやハルニレなど何でも食べます。それが彼らの生き残るための戦略なのです。もちろん敵もいます。カメムシやクモが幼虫の体液を吸います。弱っているものはアリのたかられています。どれだけ生き残るのでしょうか。ちなみに、成虫は何も食べず繁殖のためだけに生き、一生を終えます。

第57回旭川市旭山動物園 児童動物画コンクールの作品募集中！

今年で57回目を迎える「旭川市旭山動物園児童動物画コンクール」の作品募集が6/20(金)からスタート。毎年、旭川市内を中心に、道内外からも思い思いに動物を描いた作品が集まります。絵のテーマは「旭山動物園内の動物および風景」となっており、「幼児の部」「小学校低学年の部」「小学校高学年の部」の3部門で作品を募集中です。詳細は公式ホームページに掲載されている応募要領をご確認ください。



募集期間は

8/22(金)
まで



「きりん舎」の放飼場の地面にいる ホロホロチョウに注目！

キリンの足もとで大声で鳴いたり走ったり、草をついばんだり、砂浴びをしたりしている鳥・ホロホロチョウ。キリンとホロホロチョウ、違う種の生きもの同士が同じ空間で生活(共生)することで、お互いがほどほどの緊張感をもって暮らしています。成鳥は15羽いますよ。



ホロホロチョウ／アフリカの低木が生えた草原などに生息するキジの仲間。園内で飼育しているのは家畜。肉は日本では高級食材としてフランスでは日常的に利用されているそうです。



6/11から続々と孵化しているヒナ。成長するまでバックヤードで飼育しています。6/15撮影

